

## 10. 性能

項目	「墜落制止用器具の規格」
肩・背中・腰・腿・胴ベルト	15.0kN 以上
フック	11.5kN 以上
フック外れ止め装置	1.0kN の力を加えた時、隙間にΦ3mmのビンゲージが通らないこと。
環類	11.5kN 以上
肩/腿ベルト用バックル連結部	6.0kN 以上
胴ベルト用バックル連結部	8.0kN 以上
ストラップ・ショックアブソーバ	15kN 以上
ショックアブソーバの衝撃吸収性	重さ125kgの重錘またはトルソーを自由落下距離で落下させた場合に、衝撃値が4.0kN以下であること、またショックアブソーバの伸びが1.2m以下であること。
フルハーネス本体	引張強度 順方向引張強度15kN 以上 逆方向引張強度10kN 以上
	落下強度 脚部および頭部から先に落下させた時に、トルソーを保持すること。 落下後のランヤードとトルソーのなす角度は45°以下。 ベルトの著しい裂け、縫製部の破断、金具の破損なきこと。

### 製品に関するお問い合わせは



<https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>



0120-125577

受付時間：

月曜日～金曜日 9:00～17:00  
(12:00～13:00/祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3  
[www.tajimatool.co.jp](http://www.tajimatool.co.jp)

保管用 第2版  
56398

ご使用前に必ずお読みください。

「墜落制止用器具の規格」適合品

## 取扱説明書

# フルハーネス型 タイプ1 125kg用

このたびは、《墜落制止用器具フルハーネス型 タイプ1 125kg用》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる墜落制止用器具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。

▲危険・△警告・△注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社HPにも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HP アドレス：[www.tajimatool.co.jp](http://www.tajimatool.co.jp)

(HPトップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

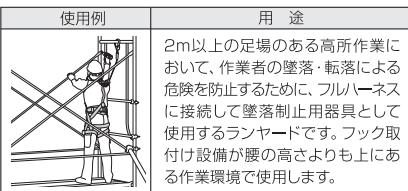
この墜落制止用器具はフルハーネス型 タイプ1(1本つり)専用です。

### ●目次

1.用途	2～3
2.フルハーネス本体の構造および各部名称	4～5
3.装着方法	6
3-1 装着方法	7～8
3-2 バックルの使用方法	9
3-3 ベルトの長さ調節	10～11
3-4 AR環の使用方法 (ZAのみ)	11
3-5 SEGフルハーネスとSEG胴当てベルトの取付け方法	12
3-6 胴ベルトの取付け方法	12
4.フルハーネス型ランヤードの構造 および各部名称	13
5.フルハーネスへのフルハーネス型 ランヤードの取付け方法	14
5-1 フックの操作方法	14
5-2 フックの使用方法	14
5-3 フックハンガーの使い方	14
6.必ずお守りください (使用上の注意事項)	15～19
7.点検と廃棄の基準	20～22
8.保管と手入れのしかた	23
9.交換の目安(耐用期間)	23
10.性能	24

# 1. 用途

このランヤードはフルハーネス型  
タイプ1<sup>\*1</sup> 1125kg用(1本つり<sup>\*2</sup>)専用です。  
その使用例および用途は右記のとおりです。



## \*1 タイプ1

自由落下距離で墜落を制止する時の衝撃荷重が4.0KN以下になる、第1種ショックアブソーバを備えたランヤードとなります。

## \*2 1本つり

図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。

## 種類：フルハーネス型 種別：第一種(4kN)

- 体重(装備重量含む)：125kg以下
- 最大自由落下距離：2.15m
- 落下距離：4.35m

でご使用ください。

製品のラベルにも記載がありますので、上図赤枠内の表記を必ずご確認ください。

●最大自由落下距離 このショックアブソーバの性能を確認している試験落下高さです。実使用上は、フックを掛ける高さによって距離が変動します。

●落下距離 体重(装備重量)125kgの方が、高さ0.85mの親綱および単管にフックを掛けた状態で墜落した場合の作業床からの落下距離です。

●使用可能質量 体重と装着する全ての物の合計重量です。

▼安全にご使用いただくために必要となる作業所～床までの距離

	親綱および単管にフックを掛ける高さ							
	0m (足元)	~	0.85m	1.0m	1.15m	1.3m	1.45m	1.6m
自由落下距離	2.15m ラベル表記		2.0m	1.85m	1.7m	1.55m	1.4m	
落下距離	4.35m ラベル表記		4.2m	4.05m	3.9m	3.75m	3.6m	
必要となる距離	6.75m以上	4.35m以上	4.2m以上	4.05m以上	3.9m以上	3.75m以上	3.6m以上	

\*現在のところ取扱いはございません。なおタイプ1はこの条件では使用できません。

## ●体重(装備重量)\*の制限について

体重は125kg以下でご使用ください。

体重が125kgを超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、墜落制止用器具が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。

\*体重(装備重量)：体重と装着する全ての物の合計重量

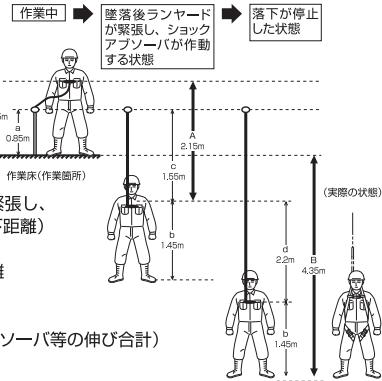
## ●使用高さの制限について

このランヤードは下の図の使用を想定しております。

D環の高さ：1.45m フック取付け高さ：0.85m

この場合、

最大自由落下距離：2.15m、落下距離(作業床からの落下距離)：4.35mとなります。



a : フック取付け高さ

b : D環の高さ

c : ランヤード長さ

d : ショックアブソーバー、

フルハーネス、

ランヤードの伸び合計

A : 最大自由落下距離(ランヤードが緊張し、ショックアブソーバーが作動する落下距離)

$$A = c + (b-a)$$

B : 作業床(作業箇所)からの落下距離

$$B = c + d + (b-a)$$

$$= A + d$$

(最大自由落下距離+ショックアブソーバ等の伸び合計)

b-a : 追加落下距離

作業床から地面までの距離が4.35m以下の場合は、フックを0.85mより高い位置に掛け替えてご使用ください。

例として、同じD環の高さの方が、使用高さ3.75mの場所でご使用される場合の推奨使用方法を右図に記します。

D環の高さ：1.45m

フック取付け高さ：1.45m

(0.6m高い位置に掛け替える)

a : フック取付け高さ

b : D環の高さ

c : ランヤード長さ

d : ショックアブソーバー、フルハーネス、

ランヤードの伸び合計

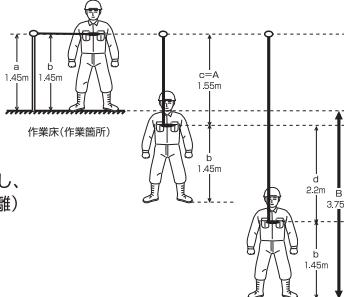
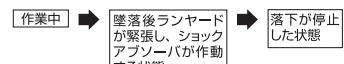
A : 最大自由落下距離(ランヤードが緊張し、ショックアブソーバーが作動する落下距離)

$$A = c$$

B : 作業床(作業箇所)からの落下距離

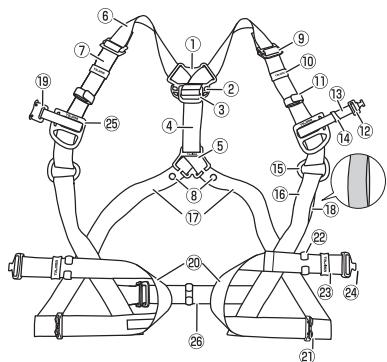
$$B = c + d$$

$$= A + d$$



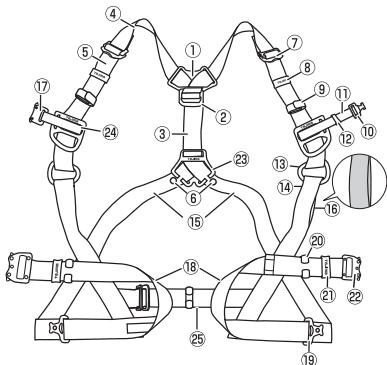
## 2. フルハーネス本体の構造および各部名称

ZAタイプ



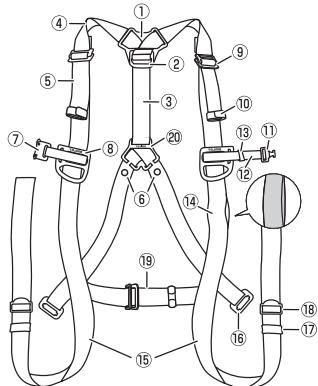
- ①バックパッド
- ②D環
- ③D環
- ④背中ベルト
- ⑤腰パッド
- ⑥肩ベルトA
- ⑦肩ベルトB
- ⑧固定用ボタンホック
- ⑨肩パックル
- ⑩ベルストップバー
- ⑪ロックバンド
- ⑫胸パックル（凸側）
- ⑬胸ベルト
- ⑭胸ベルト用ベルト通し
- ⑮ザイルリング
- ⑯腰ベルトA
- ⑰腰ベルトB
- ⑱固定用ループ
- ⑲胸パックル（凹側）
- ⑳腿ベルト
- ㉑腿パックル（凹側）
- ㉒ベルトキーパー
- ㉓ベルストップバー
- ㉔腿パックル（凸側）
- ㉕フックハンガー
- ㉖骨盤ベルト

ZSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦肩パックル
- ⑧ベルストップバー
- ⑨ロックバンド
- ⑩胸パックル（凸側）
- ⑪胸ベルト
- ⑫胸ベルト用ベルト通し
- ⑬ザイルリング
- ⑭腰ベルトA
- ⑮腰ベルトB
- ⑯固定用ループ
- ⑰胸パックル（凹側）
- ⑱腿ベルト
- ㉑腿パックル（凸側）
- ㉒ベルトキーパー
- ㉓ベルストップバー
- ㉔腿パックル（凹側）
- ㉕フックハンガー
- ㉖骨盤ベルト

GSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦胸パックル（凹側）
- ⑧フックハンガー
- ⑨肩パックル
- ⑩ロックバンド
- ⑪胸パックル（凸側）
- ⑫胸ベルト
- ⑬胸ベルト用ベルト通し
- ⑭固定用ループ
- ⑮腿ベルト
- ⑯腿パックル（凹側）
- ⑰ベルトキーパー
- ⑱腿パックル（凸側）
- ⑲骨盤ベルト
- ㉒腰パッド

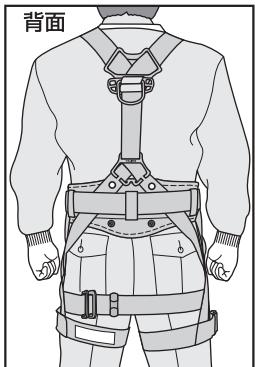
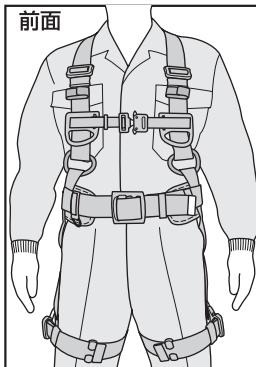
### 3. 装着方法

#### ご注意

**SEG** フルハーネスは胴ベルトには直接取付けることはできません。12ページをご確認の上、タジマの **SEG** 脇当てベルトと胴ベルトを組合わせてご使用ください。

**SEG**フルハーネス + **SEG**脇当てベルト + 胴ベルト

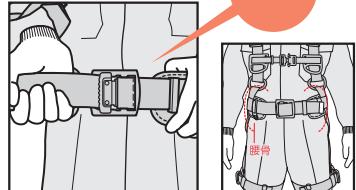
〈装着例〉



※イラストはZAシリーズです。

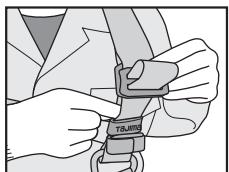
#### 3-1. 装着方法

- ①フルハーネスの胸バックル、腿バックル、胴ベルトのバックルを外した後、リュックを背負うように肩ベルトに腕を通す。この時肩ベルトがよじれないように注意する。



- ②胴ベルトを腰骨の高さに合わせ、体にフィットするように長さを調整し装着する。

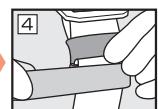
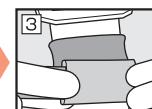
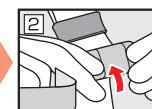
(調整目安：肩ベルトA/B、背中ベルトが適度に張った状態)



肩ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。



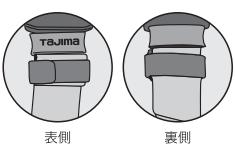
- ④肩ベルトが緩まないようベルトストッパーを肩バックル下に移動させる。(ZA/ZSのみ)  
調整後余った肩ベルトは下の図の手順でまとめ固定する。



肩ベルトBの先端のロップ  
クバンドをはがす

はがしたロックバンド  
を軸に余った肩ベルト  
を巻く

ベルトストッパー下まで  
、その状態でロックバンドを  
使ってベルトを固定する。  
※ロックバンドの黒面が上になるようにベルトに巻付け  
固定する。



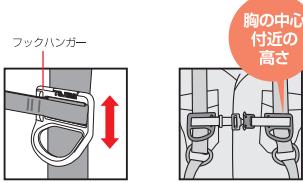
対応表			
脇当てベルト	フルハーネス		
	S	M	L (125kg用)
GAXW600・ACRX600・USFX600・USCX600	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	※2
GAXW700・CRX700・ACRX700・USFX700・USCX700・CKRX700	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
GAXW800・CRX800・ACRX800・USFX800・USCX800・CKRX800	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CRX900・CKRX900	※1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※1.フルハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定(引掛けガイド内側)

※2.フルハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定(引掛けガイド外側)

フルハーネスと脇当てベルトの組合せは同サイズのものをおすすめします

⑤フックハンガーを上下にスライドさせ、胸ベルトが胸の中心付近の高さに来るよう調整する。



#### ⑦ZA/ZSシリーズの場合

腿ベルトの腿パックル(凸側)を腿パックル(凹側)に差し込み固定。その後に太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調整する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。また腿ベルトが緩まないよう、ベルトストッパーを腿パックル横に移動させる。(ZA/ZSのみ)

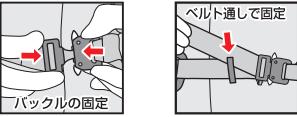


腿ベルトの長さ調節は11ページをご覧ください。

⑧骨盤ベルトにたるみが出ないように骨盤ベルトの長さを調節する。余った骨盤ベルトはベルトキーパーに通し固定する。

⑥胸ベルトの胸パックル(凸側)を胸パックル(凹側)に差し込み固定。その後、胸ベルトの長さを調整する。

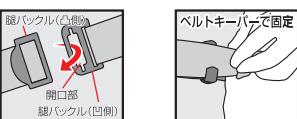
(調整目安: 胸ベルトが適度に張った状態)余った胸ベルトは胸ベルト用ベルトを通しに通し固定する。



胸ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

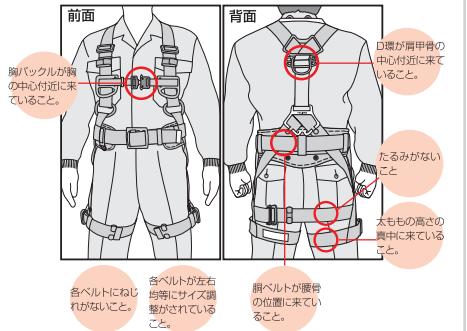
#### ⑦GSシリーズの場合

腿ベルトの腿パックル(凸側)を腿パックル(凹側)の開口部に通し固定。その後に太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調整する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。



腿ベルトの長さ調節は11ページをご覧ください。

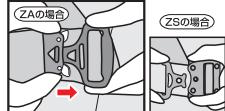
### 正しい装着例



## 3-2. バックルの使用方法

### ZA/ZSシリーズの腿パックル

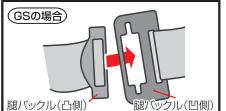
#### 連結する時



①片方の腿パックル(凸側または凸側)を持ち、反対側の腿パックル(凹側または凸側)の奥に当たるまで差し込みます。

### GSシリーズの腿パックル

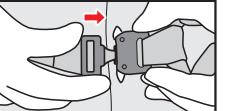
#### 連結する時



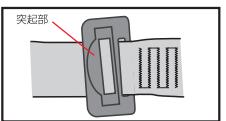
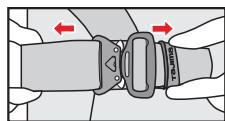
①腿パックル(凸側)を腿パックル(凹側)の開口部に矢印の方向で通し固定します。

### 全シリーズ共通胸パックル

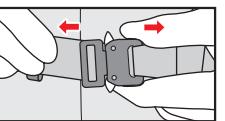
#### 連結する時



①片方の手で胸パックル(凸側)を持ち、胸パックル(凹側)の奥に当たるまで差し込みます。

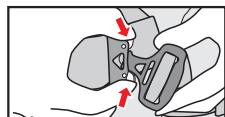


②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに腿ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

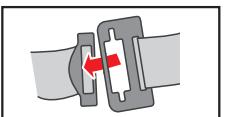


②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに胸ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

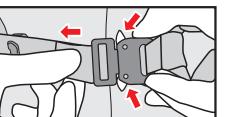
#### 外す時



#### 外す時



両側のロック解除レバーを同時に押すと腿パックル(凸側)の開口部に矢印の方向で通すと腿パックルが外れます。



腿パックル(凸側)を腿パックル(凹側)の開口部に矢印の方向で通すと腿パックルが外れます。

### 3-3.ベルトの長さ調節

※イラストはZAシリーズです。GS/ZSも同じ調節方法です。

#### 肩ベルト

ベルトを短くする場合



#### 胸ベルト

ベルトを短くする場合



ベルトを長くする場合

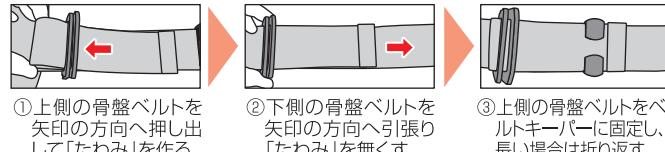


#### 骨盤ベルト

ベルトを短くする場合



ベルトを長くする場合

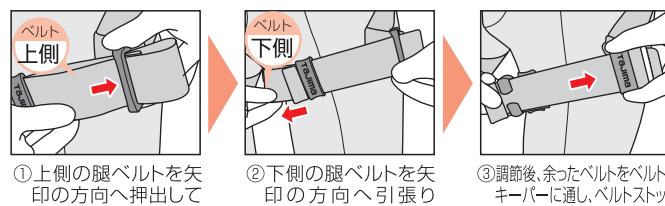


#### 腿ベルト

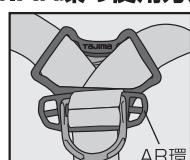
ベルトを短くする場合



ベルトを長くする場合



### 3-4.AR環の使用方法 (ZAのみ)



AR環には安全ロープが取付けられます。  
●安全ロープ取付け穴(1穴) 許容重量: 1.0kg以下



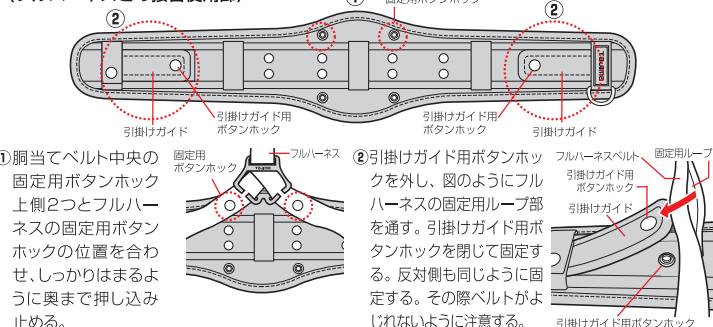
\*設定荷重以上の安全ロープ  
(取付け工具を含む)は絶対に取付けないでください。

### 3-5. SEGフルハーネスとSEG胸当てベルトの取付け方法

〈注意〉必ずフルハーネスと胸当てベルトを先に取付けてから胸ベルトを取り付けてください。

\*イラストはCRXシリーズです。その他シリーズも同じ取り付け方法です。

〈フルハーネスとの接合使用部〉

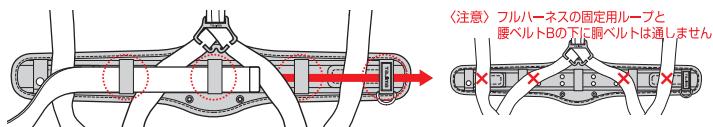


① 胸当てベルト中央の固定用ボタンホック上側2つとフルハーネスの固定用ボタンホックの位置を合わせ、しっかりとまるるように奥まで押し込み止める。

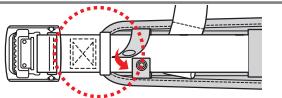
### 3-6. 胸ベルトの取付け方法

3-5の方法でフルハーネスと胸当てベルトを取り付けた後、図のように胸ベルトを胸当てのベルトループに通す。この時、フルハーネスの腰ベルトBは胸当てベルトの左右真ん中のベルトループの内側に来るようする。

[ベルトループ数] GAXW600のベルトループは2箇所、その他の胸当てベルトは4箇所あります。

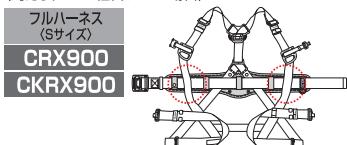


ボタン式ベルトループのボタンを外し、胸ベルトのバックルを通し、最後にボタンを止め固定する。

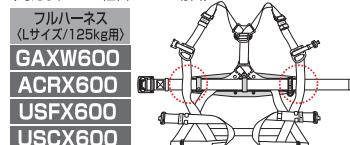


〈ご注意〉下記製品の組合せの場合、胸当てベルトの「引掛けガイド」は使用せず、胸ベルトを下記位置でフルハーネスの固定用ループに通します。

〈対応表※1の組合せの場合〉



〈対応表※2の組合せの場合〉



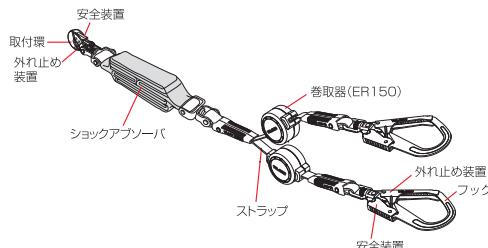
※固定用ループの位置にご注意ください。

## 4. フルハーネス型ランヤードの構造および各部名称

### 使用するランヤードについて

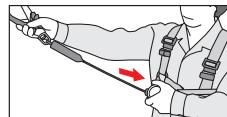
フルハーネスに使用するランヤードは、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。フルハーネス型ランヤード以外を組合せた場合、墜落制止時の衝撃荷重が「墜落制止用器具の規格」に定められた4kNを超える場合があります。またフルハーネスと組み合わせるフルハーネス型ランヤードは当社製品をご使用いただくことを推奨します。

### 〈巻取式(ロック装置なし)〉ERタイプ 125kg用



#### 〈ストラップ長さの調節方法〉

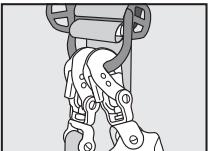
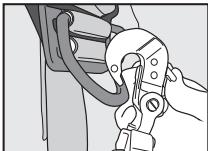
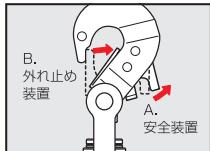
- ①ストラップを全て引出す
- ②引出したい長さになるように巻取器本体を身体側にスライドさせ、ストラップを固定する。



## 5.フルハーネスへのフルハーネス型ランヤードの取付け方法

フルハーネスのD環と直接ランヤードが付いている製品については、この取付け作業は必要ありません。

- ①A安全装置を引上げて、  
B外れ止め装置を押して  
取付環を開口する。  
②フルハーネスのD環に取  
付ける。  
③シングルランヤードを2  
本取付ける場合は図のよ  
うに取付けます。



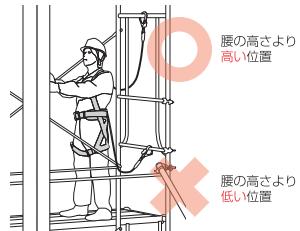
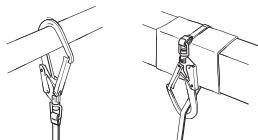
### 5-1.フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。  
開口します。



### 5-2.フックの使用方法

フックは腰の高さより高い位置の堅固な構造物等に直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。



### 5-3.フックハンガーの使い方

フックハンガーはフック休止専用部品です。



## 6.必ずお守りください（使用上の注意事項）

**危険** 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性が  
ありますので、絶対にやめてください。

- ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

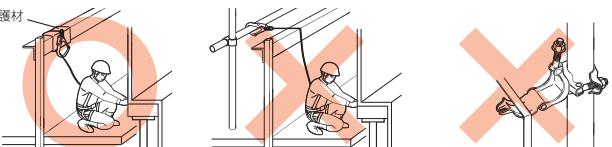
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれがなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。



電灯線等弱い構造物に取付けると、墜落制止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。

- ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

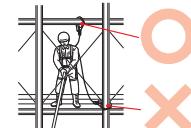
ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。



墜落制止時に鋭い角でランヤードが切断することがあります危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

- フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックは必ず腰の高さより高い位置に取付けてください。低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり床面または下方の障害物に接触する危険性があります。また衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼす恐れがあるばかりか、ランヤードが切断する危険性があります。絶対にしないでください。

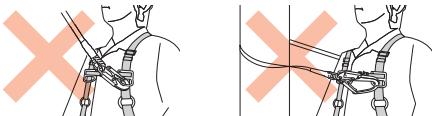


- フルハーネス型ランヤードをフルハーネスのD環に取付ける際は、フルハーネス着装前に取付けてください。着装後に取付ける場合は別の人へ確実に取付けてもらってください。

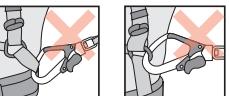
- 本品を墜落制止目的でご使用になる場合、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。絶対にワークポジショニング用ロープ（U字つり）、補助ロープ（移動用）は使用しないでください。

●フックハンガーをD環等、強度のある器具の代わりとして使用しないでください。

フックハンガーは使用していないランヤードのフックを吊り下げるためのものです。フックハンガーをD環等強度のある金具の代わりとして使用した場合、墜落制止時にフックハンガーが外れたり、壊れて重大事故につながる危険性がありますので、絶対にしないでください。



●アクティブリングやハーネスベルトにフックは絶対に取付けないでください。



●改造や部品の取り外し等の加工は絶対に行わないでください。

●組合せて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

●フックは正しく掛けしてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように、フックの主軸の方向と墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けさせてください。

回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けさせてください。

フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			

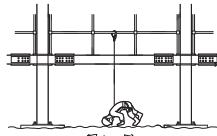
誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材で押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

●どちらか一方のランヤードが構造物と連結しているようにしてください。  
(ランヤード2本をご使用の場合)

どちらか一方のランヤードを掛ける前にもう一方のランヤードを外すと、構造物との接続がなくなり、墜落する危険性があります。

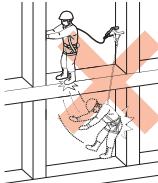
## 警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

●墜落制止用器具は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

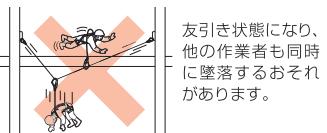


●ランヤードは墜落制止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。

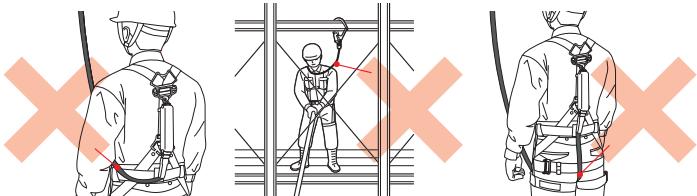
●ランヤードは振り子状態にならない位置に取付けてください。



●親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



●ランヤードが首の前にある状態や脇、股に挟み込んだままで作業をしないでください。



●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

右図のように環類が変更・破損しているば、大きな外力が加わった可能性があります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。



外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。

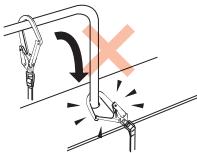
●フックをステップボルトに掛けないでください。

墜落制止時にフックが曲がったり、抜けたり、ステップボルトが折損したり、重大事故になる危険性がありますので、絶対にしないでください。



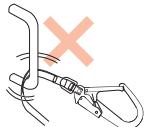
- フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けないでください。

支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場合にはフックを掛けないでください。

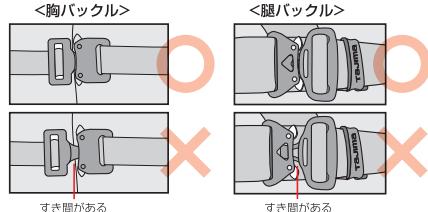


- 屈曲としごきが加わる使用はしないでください。

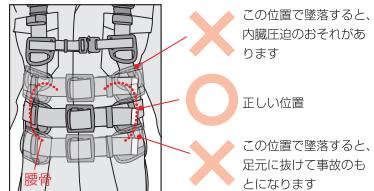
縫製部、縫型部際に過度の屈曲としごきが繰り返されると、縫製部を保護するカバーが破損し、縫製部の強度低下につながるため絶対にしないでください。



- フルハーネスのバックルが確実にロックされていることを確認してください。

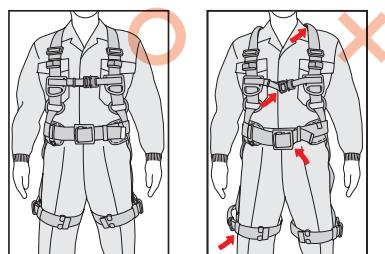


- 腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかりと締めてください。



- 必ずベルトの長さを体にフィットするように調節してご使用ください。

ベルトを緩めた状態で装着していると、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、体が損傷したり、フルハーネスが体から抜けで重大な事故につながる可能性があります。また作業時に突起物などに緩んだベルトが引掛かり転倒する恐れがあります。



- 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

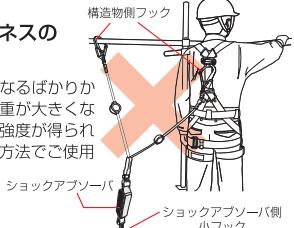
- 雨の日は感電に注意してください。

- 墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください。

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。なお、使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

- ショックアブソーバ側の小フックをフルハーネスの背中D環に取付けてご使用ください。

誤った取付け方法でご使用された場合、落下距離が長くなるばかりか墜落制止時にショックアブソーバが全く機能せず衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼす危険性があります。また十分な強度が得られず墜落制止できない恐れがありますので、正しい取付け方法でご使用ください。



## 注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

- 墜落制止用器具に体重をかけて作業をしないでください。

万一の墜落制止を目的に使用する製品です。

- 丁寧に扱ってください。

ランヤードを引きすぎますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取式タイプについてはストラップを巻取器に収納してください。

- フルハーネス、フルハーネス型ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトを組合せてご使用になる場合は、当社製品を組合せさせていただくことを推奨します。

- フルハーネスと胴当てベルトは同じサイズのものを組合せさせていただくことを推奨します。

- 墜落制止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋へ入れてください。

- 墜落制止用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

## 7. 点検と廃棄の基準

●一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。  
墜落制止用器具および関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において1項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

**始業点検**：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。  
点検後地上で墜落制止用器具を装着し、異常のないことを確認してください。  
**定期点検**：使用する人もしくは管理者により1ヶ月ごとに行ってください。  
**異常点検**：作業中墜落制止用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

### ●墜落制止用器具点検チェックリスト 日常の点検を執行してください。

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。  
(このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください)

○：異常なし  
×：異常あり

点検項目		廃棄基準	判定
ベルト	両耳	摩耗・擦り切れ 2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 切り傷 2mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 2mm以上の焼損・溶融しているもの	
	幅の中	摩耗・擦り切れ 2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 切り傷 2mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 2mm以上の焼損・溶融しているもの	
	全 体	薬品・塗料 2mm以上付着しているもの 切り傷 2mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 2mm以上の焼損・溶融しているもの	
		ねじれ・曲り ベルトがねじれたままのものや、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの 磨耗 腰袋などに隠れるベルト部分が摩耗しているもの	
		縫製部 縫糸 1カ所以上切斷しているもの	
	パックル	綿まり具合が悪いもの リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの 深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの ベルトの噛合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)	
		錆 全体に錆が発生しているもの ばね 折損、脱落しているもの	
		変形 目視で確認できる変形のあるもの	
		摩滅・傷 深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの 錆 全体に錆が発生しているもの	
		その他 割れ、亀裂のあるもの	
胴ヘルト	ベルト	摩耗・擦り切れ 3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 切り傷 3mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 3mm以上の焼損・溶融しているもの	
		摩耗・擦り切れ 3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 切り傷 3mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 3mm以上の焼損・溶融しているもの	

ベルト	点検項目	廃棄基準	判定
胴ヘルト	ベルト	薬品・塗料 3mm以上付着しているもの 切り傷 3mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 3mm以上の焼損・溶融しているもの 先端止めの変形 パックルに通らなくなったもの 先端止めの脱落 先端止めが脱落してベルトがほつれているもの 縫糸 1カ所以上切斷しているもの	
		変形 綿まり具合が悪いもの リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
		摩滅・傷 深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの ベルトの噛合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)	
		錆 全体に錆が発生しているもの ばね 折損、脱落しているもの	
		変形 外れ止め装置の開閉操作の悪いもの リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
	パックル	摩滅・傷 深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの 錆 全体に錆が発生しているもの ばね 折損、脱落しているもの	
		変形 より戻しの回転部に0.8mm以上の隙間があるもの	
		錆 ストラップの巻込み、引出しができないもの 取付ねじ 巻取器の取付ねじが脱落しているもの	
		破損・傷 巻取器が破損しているもの 樹脂カバー(ケース) 樹脂カバー(ケース)が破損しているもの	
		リベット リベット頭部が1/2以上摩滅しているもの 錆 リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
	ランヤード	金屬部に錆が発生しているもの 摩耗・擦り切れ 芯の露出、また1mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 使用開始から2年が経過しているもの	
		切り傷 芯の露出、また1mm以上の切り傷のあるもの 焼損・溶融 芯の露出、また1mm以上の焼損・溶融しているもの	
		薬品・塗料 汚れ・変色・硬化しているもの 縫製部保護カバー 縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの	
		縫糸 摩耗・擦り切れ・切斷しているもの	
		薬品が付着したもの 薬品により変色・溶融個所があるもの 塗料が著しく付着して、硬化したもの	
	ショックアブソーバ	切り傷 カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの (テープなどを巻付けないでください)	
		擦り切れ 両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの	
		衝撃荷重 大きな衝撃荷重を受け作動したもの	
		変形 目視で確認できる変形のあるもの	
	環類	摩滅・傷 深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		錆 全体に錆が発生しているもの	

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

## 墜落制止用器具の廃棄基準の一例

ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融 両耳 2mm以上の摩耗・切り傷があるもの	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融 幅の中 2mm以上の摩耗・切り傷があるもの
	切り傷 1mm以上 1mm以上の摩耗・切り傷があるもの	摩耗 芯が見えているもの
ストラップ	形崩れ 全体に波打っているもの	薬品・塗料 塗料が付着して硬化しているもの、また薬品が付着し、変色しているもの
	損傷・溶融	縫糸 縫糸が1カ所以上切断しているもの
	変形	摩滅・傷
	変形し、締まり具合の悪いもの	1mm以上の摩滅、傷があるもの
バックル	変形	摩滅・傷
	目視で変形が確認できるもの	1mm以上の摩滅、傷があるもの
環類	変形	摩滅・傷
	目視で変形が確認できるもの	1mm以上の摩滅、傷があるもの
ショックアブソーバー	破れ カバーが壊れてショックアブソーバーが露出しているもの	
フック	変形	摩滅・傷
	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの	1mm以上の摩滅、傷があるもの
巻取器	変形 ストラップの巻込み、引出しができないもの	破損・傷 本体が破損しているもの

## 8. 保管と手入れのしかた

### ●墜落制止用器具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当らない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

### ●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

### ●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。

### ●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

### ●高温（50°C以上）となる場所に長時間保管しないでください。

## 9. 交換の目安（耐用期間）

使いかたによって異なりますが、交換の目安としては、ランヤード部は使用開始年月より2年、フルハーネス本体・ベルト部は3年くらいを目途としてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

### ●使用を開始した年月を腿ベルト裏面に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（下図参照）。

### ●ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。

